

## 倉敷市真備地区を視察しました

近年、地震だけでなく豪雨による土砂崩れや水害も起こっています。今回、ご縁をいただいて、昨年7月に水害にあった倉敷市の真備地区(合併前は真備町)に行ってきました。

### ☆真備地区の概要

奈良時代の公卿で学者の「吉備真備(きびのまきび)」の出身といわれています。2005年に倉敷市と合併しました。合併前は、吉備郡真備町でした。合併前の人口は、約22000人。合併後は約23000人という地区です。隣接する総社市、倉敷市(電車で一駅の倉敷駅からは、水島鉄道の始発駅となっています。その先には水島コンビナートがあります)のベッドタウンとして、合併後も人口が増加していました。(現在は、水害のために真備地区を離れた人が1割ほどだそうです)

### ☆水害では

川の水が堤防を越えて溢れ、堤防へも水が浸透していき決壊したとのこと。水に恵まれた豊かな土地が一晩で水に浸かってしまいました。



(<https://www.sankei.com/west/news/180709/wst1807090012-n1.html>)

### ☆1年経って

河川改修の計画が策定され、昨年の10月から着工という矢先だったとのこと、すでに計画はできていたので、素早い復旧ができそうです。

民家の方は、新築の家はリフォームして住んでいらっしゃいます。ところが、そのままになってしまっている家もあり、水害が起こった跡を残していました。

地域の復旧復興ためには、人が戻ってくることで、そこで生活が営めるようにインフラ整備が進むとともに、商店等が再開されることも必要なことです。地元の若い事業者の方々が復興、再生のために何かできるかを話し合っているそうです。

☆地元を愛する人が力を合わせて行動を起こしていくことが復旧復興の強い礎になるのだと思います。そこに、ファシリテーションがお役に立てることもありそうです。